

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう



発行所
 高崎ユネスコ協会
 高崎市高松町35番地1
 (〒370-8501)
 高崎市市民部
 防犯・青少年課内
 電話 (027) 321-1297



合同表彰式は12月17日(日)午前9時45分開会した。10月20日(金)25日(水)テイギャラリーで行われた国際児童画展への高崎市立小中・特別支援学校からの多数の展示作品から入賞94名、及び、作文入賞53名計147名中113名の児童生徒と保護者、来賓20名が参加。一人ひとりへの賞状授与を含め全てがスムーズに進行し厳かな式となった。

審査の講評と最優秀賞(高崎ユネスコ協会会長賞)4作品を紹介する。

再開!! 対面開催
第51回ユネスコ児童画・作文合同表彰式
 令和5年12月17日(日) 高崎市文化会館

ユネスコ国際
 児童画展 講評

高崎市立八幡中学校教諭 齋藤 未来

今年のユネスコ作品展は、1195点もの作品が展示されました。たくさん作品をご出品いただきありがとうございます。どの作品も力作揃いで、審査員の先生方とたくさん悩みながら計94作品を受賞作品として選ばせていただきました。

その中で、高崎ユネスコ協会会長賞に選出された作品「休み時間の私の居場所」は、陰影が見事な作品でした。ブランコの柵や支柱から伸びる影、今にも動き出しそうなブランコから落ちる影。そして、黄色い支柱や青い柵の光が当たった部分の色・陰の色をよく見て、とても丁寧に色づくりに取り組んだ作者の姿を感じます。また、少し濃い所・薄い所と水分量を変えてぬられた校庭の色は、子どもたちが校庭を駆け回った足跡のようで、休み時間のにぎやかな様子



児童画の講評



作文の発表

を感じました。何より、この場所が大好きだという作者の思いを感じる作品でした。

同じく高崎ユネスコ協会会長賞に選出された作品「ポーちゃん」は、この白猫の頭をなでたい!と思ってしまう程の緻密な表現力に驚かされました。その表現力の秘密は、毛の一本一本の長さや、毛並みの向きに合わせて筆を動かしていること。もう一つは、白は白でも実に多くの「白」色を見つけていることです。チューブから出した真っ白だけではなく、灰色の白の毛の色、少しクリーム色が混ざったような白の毛の色など、本当に様々な「白」を見抜いて描き分けることが出来ています。ポーちゃんの目、少し濡れた鼻、ピ

小学校の部

「休み時間の私の居場所」

高崎市立六郷小学校六年

吉田 奈未

私の通う六郷小学校では、6年生になると校舎の絵を自分の好きな構図で描くという授業が

ンとしていられるけれど柔らかそうな耳:それぞれの「どこに」「どんな形」が「どんな色」が隠れているのか見極めたからこそ生まれた「質感」の描き分けが見事な作品でした。

私は、ものを描いたりついたりすることは「かくれんぼ」に似ていると思っています。身の周りや自分の心の中に隠れた「表したいイメージ」を探して見つける。そこに隠れた「形や色」をじっくり探して見つける。さっと、ものづくりのかくれんぼでたくさん「みーつけた!」ができた作品は、見た人の心を震わせる作品になるのだと思います。受賞された94名のみなさんは、隠れていたイメージや、形・色をたくさん見つけたプロの方々なのだと思います。お子様の豊かな発見を支えてくださったご家族や先生方に感謝申し上げます。これからも、自分が見つけたたくさんの気持ちや形・色との出会いを楽しんで、作品を生み出してください。

休み時間の私の居場所



あります。いよいよ私もその時を迎え、小学校最後の作品を思い深いもので締めくりたいという思いで描き始めました。昨年、5年生の授業でランドセルを描いた時に、水っぽく薄くなってしまい一体感が出せなくて悔しい思いをしたので、今年には自分が納得できる絵になるようにリベンジする気持ちで描きました。

塗り方は、空、地面、ブランコと遠いところから順番に塗りました。そして、最初は薄く、だんだん濃くしていくイメージで塗っていき、一番のポイントは影を濃くしたところです。ほぼ全てのものに影を入れ立体感が出るようにしました。そして、色は赤青黄色の三色のみを使用し、組み合わせさせてたくさん

の色を作りました。校舎の古びた色を作るのが難しかったです。なぜこのブランコから見える校舎のアンクルを選んだのかというと、そこが私の中で一番思い出がある場所だからです。休み時間にいつもブランコに乗って、友達が追いかけてくっついていたり、無邪気に遊んでいる姿など校庭の様子を眺めるのが毎日の楽しみでした。特にブランコが高く上がった所から校庭を見下ろすのが、一番好きです。その自分の大切な場所、小学校生活で一番幸せな時間を過ごした場所を残したくて、ここを選びました。六年間の思い出が詰まった『休み時間の私の居場所』を納得のいく仕上がりで残すことが出来て満足です。そして最後に高崎ユネスコ協会長賞という大変名誉ある賞を受賞し、合同表彰式に参加させていただき最高の締めくりでこの六郷小学校の校舎から卒業できることが光栄です。私の描いた絵を高く評価してくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

中学校の部

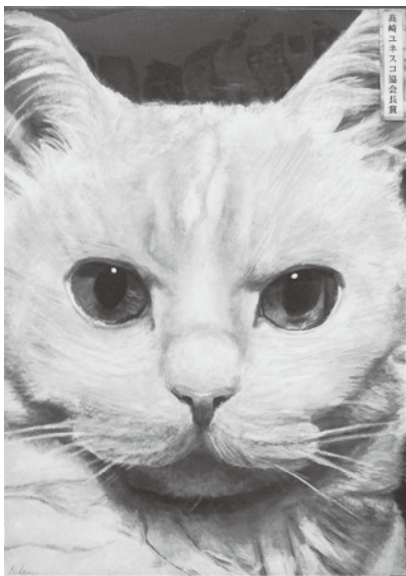
「ポーちゃん」

高崎市立高松中学校三年

坂口 礼積

今回は高崎ユネスコ協会長賞

を頂き本当にありがとうございます。私自身この様な素晴らしい賞を頂けるとは思っていなかったので本当に嬉しい気持ちでいっぱいです。「ポーちゃん」という絵は、私の美術部での卒業制作として制作した作品です。お家で飼っている猫をずっと描きたいと思っていたため制作しました。またこの作品では初めてアクリル絵の具を使用しました。私は西洋美術に興味があり、これまでの作品で西洋美術の作品のオマージュなどもしたことがあります。今度は作品を真似するのではなく、自分の作品を作ろうと思ひ、アクリル絵の具を使って描こうと考えました。構図はポーちゃんが真つ正面を見る図にしました。理由は、正面はその人(ポーちゃんは猫ですが)を真つ直ぐ見るという事を表現し、この絵を通して、ポーちゃんを改めて見つめてみようと思ったからです。また、こ



ポーちゃん

めて、今回はこの様な素晴らしい賞をくださりありがとうございます。ありがとうございました。

の3年間とこれからの自分と向き合うという意味も込めました。練習をしてから本番に入りましたが、やはり難しかったです。ポーちゃんは白猫なのですが、その再現が難しかったです。また、なんとと言っても「目」が重要で、それもとても難しかったです。私が絵を描くときに大切にしていることは、被写体をよく見ることです。描いている絵よりも被写体を見ている時間が長くなる程よく見て、理解する。これは部活の顧問の先生に教えて頂きました。それを意識しながら、壁を越えられる様努めました。

この様に作成したポーちゃんですが、どこまでも細かくできるものであり、終わりが無いと思います。ですが私はどこまでも描けばいいではなく、どこまで描くのが大事だと思ひます。これからもそれを意識して美術と自分と向き合いたいです。改



https://www.21.nichibun-g.co.jp/zuko_gallery/ (提供：日本文教出版株式会社 イラスト：やまねりようこ)

日本文教出版デジタルアーカイブ「みんなの図工ギャラリー」に2作品が紹介されています。



【高崎市立 岩鼻小学校】 5年生 『優しい心』



【高崎市立 東部小学校】 2年生 『カラルな魚が生まれたよ』

高崎ユネスコ 作文審査・講評

高崎ユネスコ作文部長

品田 京子

今年度も、高崎市内の児童生徒から、世界平和を願ひ平和の心を育てる内容の作文を公募し

たところ、小学校は六百三十五編、中学校は二百五十四編、計八百八十九編の作文が寄せられました。応募作品は、ユネスコ協会役員や国語主任会の先生方が審査を行い、小学校三十点、中学校二十三点の優秀作品を選定しました。

応募作品の題材は、多方面にわたっていましたが、今年度は、特に身近な生活に目を向け、平和の意味を問うものや思いやりや協力の大切さ等を題材とした作品が目立ちました。

その中で小学校の部の高崎ユネスコ協会長賞に選ばれたのは、桜山小学校五年藤塚彩由愛さんの『笑顔と優しさを編む』でした。藤塚さんは、チェコから来た留学生のマルとの交流を通して、住んでいる国や言葉が違って、笑顔と仲良くなりたいたいという気持ちがあれば仲良くなれることを知り、戦争や武器ではないから笑顔と仲良くなりたいたい、これから笑顔と優しい気持ちを大切に編んでいきたい、と述べています。中学校の部の高崎ユネスコ協会長賞は、南八幡中学校一年高草木愛美さんの『未来へ羽ばたく文化財』でした。高草木さんは、自分の住む地域に所在する山上碑が、祖父や亡くなった祖母との思い出の地となったことから、人間と文化財が共に生きて通じ合うことにより、

幸せの輪を作り出せると実感し、人の心を豊かにし、人への尊敬の気持ちを育む美しくすばらしい歴史文化遺産を、これからも守り、未来へと継承していくことが大切だと訴えています。

どの作品にも、子どもたちのエネルギーや創造性、自発性が感じられ、審査員に未来への希望と力を与えてくれました。子どもたちの純粋な平和への希求を私たち大人がしっかりと受け止め、平和な社会を築いていかなければならないと改めて痛感しました。

小学校の部

笑顔と優しさを編む

高崎市立桜山小学校五年

藤塚 彩由愛

今年の三月、私の家にチェコから十七さいの女の子が来た。「私の英語、きちんと伝わるかな。仲良くなれるかな。」

来ることが決まってから、新しいお姉ちゃんができる楽しみながら、心配な気持ちで、私は迷子になりそうだった。留学生の名前はマル。マルは、いつも笑顔で、私にたくさん話しかけてくれた。マルは編み物が得意だった。たん生日に、手作りのバッグをプレゼントしてくれて、とてもうれしかった。編み物をしているマルを見ていたら、

マルが編み方を優しく教えてくれた。英語や日本語、ジェスチャーをつかっ。私が上手に編めたら、自分のことのように喜んでくれた。

チェコのパンケーキ「ブランボラーク」や、チェコのすっぱいスープ「クライダ」を作ってくれた。そんなチェコ料理より日本のカレーが一番おいしいといってくれた。私の大好きな上毛カルタを一緒にしたり、みたらし団子や焼きまんじゅうと一緒に作ったりした。観音様歩いて見に行つたとき、つかれていた私をおんぶしてくれた。本当のお姉ちゃんみたいで心が温かくなった。妹と一緒に、マルモリダンスをしていたら、

「かわい。名前と同じ。」
「かわい。名前と同じ。」
「かわい。名前と同じ。」
「かわい。名前と同じ。」

四ヶ月間、私とマルは姉妹だった。チェコに帰るため、マルは荷造りをしていった。帰ってほしくなくて、私は何も言わずにとなりで編み物をしていった。突然マルが、

「さゆあ、あげる。」
「さゆあ、あげる。」
「さゆあ、あげる。」
「さゆあ、あげる。」

住んでいる国や、話している言葉がちがっても、仲良くなれ

た。笑顔と仲よくなりたいう気持ちがあったから。ロシアがウクライナに侵攻したときのテレビの映像が忘れられない。私は怖くて、母にしがみついていたのを覚えている。一年半経った今も、戦争が続いている。戦争や武器で、仲良くなれるはずがない。きらいという気持ちや恐ろしい顔は、絶対に必要ないと思う。

私はマルに伝えたい。
「日本に来てくれて、私の家に来てくれて、ありがとう。今度は私が、チェコに行くね。」

学校の勉強を、今よりずっとがんばろうと決めた。英語も、もっと話せるようになりたい。編み物も続けて、マルをびっくりさせられるくらい、上手になりたい。そして、笑顔も優しい気持ちも、大切に編んでいきたい。

中学校の部

未来へ羽ばたく文化財

高崎市立南八幡中学校二年

高草木 愛美

私は、中学校の授業でふるさと学習講演会に参加し、平成二十九年にユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑について詳しく勉強した。今まで知らなかった新たな発見もあり、よりよい学習をすることができた。その学びの中で、私が印象に残

っている古碑は、自分の住む地域に所在する山上碑だ。完全な形で残る日本最古の碑、日本語の語順で文字が刻まれた最古の日本語碑である。同時に、放光寺の長利という名の僧が、自分を育ててくれた母への感謝と供養のために建てた石碑に感めいを受けた。

山上碑は、私と祖父の思い出の場所だ。歴史や文化財などに興味・関心を持つ祖父母と私は、散策をしながら山上碑にかけていた。しかし、三年前に祖母を亡くしてからは、山上碑を訪れていない。その思い出の地に行くことにより、祖母の死を現実に入れてしまう自分を、認めたくなかったのかもしれない。祖母が他界してから、祖父は元気がなくなり笑うこともなくなつた。私は、いつか時間が解決し、前を向き希望をもつてくれるはずだと信じている

が、残された人にとっては悲しみ苦しみを乗り越えるには、時間がかかると実感している。学校での学び学習との出会いにより、祖父に未来を切り開いてほしいという願いをこめ、三人の思い出の地をそのまま心の中に閉じこめるのではなく、山上碑に再び行くことを決意した。そのことが、祖母への供養になるのではないかと思つた。
実際に、長い石段を登り、山

上碑にたどり着くと言葉が出ないほど感動した。祖父は、大粒の涙を流し泣いていた。石碑に重ねられた祖父の背をみて、昔の古い石碑というだけではなく、古い時代の人々の人生が積み重ねられていくように思えた。未来へと羽ばたき、生きていく力強さが語られていた。人は、人と人との行動や言葉のつながりの中で、心の気持ちに寄り添い合いながら、生きていくのだと思っていた私だが、それだけではないと気付いた。長い月日の歴史ある文化財などからも、人は心が救われ目には見えない心の思いを受け止め、共感し心を支えてくれると思えた。帰り道の祖父は、心に変化が見られた。祖母との別れの苦しみ悲しみが和らぎ、明るい未来へ新たな道を歩み出すことができる望みが見えた。

長利は、自らの存在を後世に伝えるために石碑を建てたと考えられているが、母への愛を通して思いやりと感謝をもつことの大切さを、後世に残してくれたようにも感じる。文化財は、歴史的側面だけを見て考えるのではなく、その時代に生きていた人々が何を伝えたかったのかも考える必要があるのではないかと。心にひびくことを伝えたかったものは何か。それは、文化財を観た人個々が感じとるもの

である。観た人がその時の状況や抱えている感情が違う中で、一つでも多くのことを感じとることができればよいのかもしれない。

私が祖母との思い出が永遠に心に生き続けているように、昔の人々が残した貴重な歴史文化遺産を守り、未来へと継承していくことが大切だと考える。そして、生まれ育った自分の地域の郷土文化財に誇りをもつとともに、多くの人に伝えていくことも私達の使命だと思う。美しくすばらしい文化財を守り続けることにより、人は心が豊かになる。全ての人を尊敬する気持ちを育むのだ。人間と文化財が共に生きて通じ合うことにより、幸せの輪を作り出せるのだらう。私は、文化財のような堂々とりんとした人の役に立てるおだやかな人になりたい。そして、周りの人を幸せにする存在であり続けたい。最後に、中学校で学びの場を作り、魅力ある文化財にめぐり会えた授業に感謝をしたい。

やっと実施できた 第1回野外体験活動

キャンプ部長 渡部 孝男

コロナ禍のキャンプ活動の代

替として野外体験活動を計画しました。令和3、4年度は『地域の文化財を訪ねようーユネスコ「世界の記憶」上野三碑巡りー』を企画したのですが応募者数が足りず中止になっていました。

令和5年度は、「大地の変動を感じる下仁田ジオパークとこんにゃく手作り体験」をテーマにしました。23名の応募(当日参加は20名)があり11月12日(日)に実施しました。8:30高崎駅0番線集合から上信電車を下仁田への電車体験から始まり、下仁田ジオパークのガイドによるエキサイティングな案内、青岩公園での地質学的学習、そしてこんにゃく手作り体験までを含む多彩なプログラムで構成されました。



語り合う石の分類

「魅力いっぱい上信電鉄沿

線」タイズで駅名や「上野三碑」や「富岡製糸場」などの文化財について、初めて乗る参加者も楽しみながら学んでいました。下仁田ジオパークツアーでは、下仁田自然史館派遣の2名のガイドが、「跡倉クリッペ」の良く見える場所で大地的変動に関する解説を行いました。

「青岩公園」では広がる緑色岩について、また、鐮川と南牧川から運ばれた数多くの石の見分け方の学習をした後、宝探しのようなた石集めも行いました。特に人気のあった石はチョークのように書ける石灰岩や火打石としても使われていた火花が出るチャートでした。お気に入り1個をお土産にしました。

昼食は青岩公園の石畳の上で行い、参加者同士持参のお弁当を囲み、ゲームや活動を通じてコミュニケーションを深めました。その後、下仁田戦争の史跡を見学し、昭和レトロな街中を通って、「こんにゃく手作り体験道場」へと移動しました。下仁田名産のこんにゃくを、専門の指導者の下で手作りし、その製造プロセスについて学びました。持ち帰った蒟蒻は市販のものとは一味も二味も違いました。この活動により、参加者は大地のダイナミックな変動を実際に感じ、地域の歴史や産業に触れ、新しい友情が芽生えるなど、ね



上信電鉄沿線クイズ回答中



手作りこんにゃく体験

らいが達成されたと感じます。最後に、市民部防犯・青少年課の指導・協力に感謝すると共に、楽しい体験ができた下仁田町に心から感謝いたします。

講演 「いつまでも光り輝く故郷のために」

何をしたらよいのか？

子どもの幸せ部長 田中 けい子

第43回「子どもの幸せを考える研究会」が、令和5年11月26日(土)高崎市民活動センター・ソシアス市民ホールにて開催され、ユネスコ会員や小中学校の校長先生、PTA役員など80名の皆さんが講演を聞いて学びました。

講師は糸井ホールディングス代表取締役社長糸井丈之氏。総合リサイクル業を始めプロ野球ダイヤモンドベガスやeスポーツの経営と幅広く活躍される著名な方です。

最初に自己紹介の中で、小中学校の時の教師との出会いなどの体験に触れ、「それが今の自

分の人格形成にも関わっている」として「人との出会いを大切に、年上に可愛がられ、同僚に頼りにされ、後輩に慕われる社会人でありたい」と続けられました。

「会社経営にあたっては、会社の繁栄、社員の幸福、地域社会への貢献を三位一体で実現できるように取り組んでいる。会社や自分が社会に必要とされる存在になりたい」という思いから「活力ある人たちを集めて、地元高崎をもっと元気にしたい」とプロ野球球団経営を開始。また、eスポーツは特別支援学校の授業の一環として取り入れることができ、「男女、年齢、障害の別なくでき、地域の活性化につながる」との考えから経営を始められました。

その他、目に見える社会貢献としては、城南野球場の電光掲示板とナイター照明を設置。現在は高崎イオン南側に多目的屋内練習場を建設中です。

これから大人になる子どもたちに光り輝く故郷を残すために、氏の座右の銘「利他の心」や「動機善なりや、私心なかりしか」にならない、自分や会社の利益だけでなく、地域や社会のためになっているか照らし合わせ、人を大切にして社会貢献もできる行動、生き方をしたいと思いました。



講師の糸井丈之氏

県ユ連主催事業に参加して

副会長 清水 哲夫

海外青年交歓研修会

令和5年11月25日、第八回群馬県海外青年交歓研修会が、大泉町で開催された。

本研修会は、国際理解・国際交流の推進の重要性を深く認識するとともに、ユネスコ活動の活性化に向けた事業の推進を図ることを目的とし、「つながる つなげる 多文化共生」と題して大泉役場二名による講演から始まった。大泉町は県内一小さな町だが、人口は最多の四万人余。その中の外国人比率が20パーセントを超え、その約7割が永住者や定住者という。



大泉町では、51カ国の在住外国人のために、多言語対応(ポルトガル語他七カ国語)がなされ、情報の発信や提供が行われている。また、教育では、ブラジルの教育機関として建てられ、認可されている外国人学校が、日本では無認可のため様々な困難が生じているという。外国人住民の方でも支援される立場から、活動への参加やキーポイントの発掘・連携を行い、地域社会の一員として共に生活してい

く仲間作りに取り組んでいる。次に、株式会社アルテソリュウシヨウ代表取締役平野勇パウロ氏による「群馬県大泉町でアイデンティティを考える」と題した講演が行われ、十歳の時にブラジルから大泉町にやってきたからの数々の体験や生活の様子を多くの人々との交流の様子が紹介された。



最後に、平野氏によるギターの演奏。サンバだけでなく、日本の演歌も披露され、たくさんの人を魅了する素晴らしい演奏を聴くことができた。

ユネスコスクール研修会

第九回群馬県ユネスコスクール研修会が令和5年12月12日藤岡市地域づくりセンター藤岡で開催された。

テーマは「ESD/SDGs、ユネスコスクールの理解、並びに実践の質的向上を図る」でI部では、「横浜市におけるESD/SDGs達成の担い手育成(ESD)はまっ子未来カンパニープロジェクトによる地域・社会との連携・協働」と題し、横浜市の3名による取組の紹介。横浜市は、人口37万人都市で506校(児童生徒数25万9586名)の市立学校があり、27校がESDの推進研究校として活動。特にほぼ全校「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に参加し、地域・企業・NPOなどとの連携・協働に取

り組んでいる。横浜には、小中学校に公民館が併設されているなど、昔から地域全体で子どもたちを見守り、非行の芽を出さない取組みがある。

II部では「SDGs活動報告・現状と課題」と題し二つの発表があった。初めに、群馬県立渡良瀬特別支援学校の小学部と高等部2名の教諭の「自然豊かな鹿田山の魅力を生かした実践」地域とつながるユネスコスクールをめぐり「と題し、開始僅か一年余りだが実り多い実践報告があった。小中高の種まき、高等部とPTAによるフットパス整備作業、高等部の綿花栽培やサツマイモ栽培など地域との連携が強調された。

ベルクの小連真広報室長は「ベルクのサステナブルな取組の紹介」と題した社名の由来(Better Life with Community)通りのリサイクル活動、フードロス対策、省エネ・創エネなどの取り組みを報告。ライフスタイルの変化等に対応し、地域社会とのつながりや働きがい・人の成長まで視野に入れた身近にある企業の実践のすばらしさを感じることができた。

最後に、講演や発表者が一堂に会して参加者との様々な視点からの質疑・協力が行われ、充実した日程を終了した。



シリーズ表敬訪問④賛助団体

高崎中央ライオンズクラブ

会員数：65名(内女性22名)
(2024年3月現在)
会長：中嶋 栄
創立：1967年(会員61名)

活動の特色は社会奉仕にある。柱は、献血・献血運動。献血ではアイバンクへ献血を実施。献血では協力者への返礼品(ドーナツなど)を準備し、年3回高崎駅東口で協力の声掛け、年1回はドッジボール大会開催時に高崎アリーナに献血車を呼び保護者へ協力をお願いしている。次に、児童生徒の健全育成として長年剣道大会とドッジボール大会に協賛。更に、養護老人施設と年末の消防分団への慰問。特に歳末警戒中の消防分団への夜食の差し入れは30年以上継続中。



中嶋 会長

高崎和田ライオンズクラブ

会員数：43名(内女性11名)
(2024年3月現在)
会長：赤見 浩数
創立：1970年2月(71名)

特色は、地元根差した青少年育成事業への社会奉仕活動。県内九つの児童養護福祉施設訪問を年に数回実施。毎年施設対抗ソフトボール大会を開催し、参加賞、優勝トロフィー、最優秀選手賞を授与。クリスマスには、メンバーがサンタ、トナカイ、雪だるまに扮しケーキを配布。また独自の奉仕として、七五三には会員メンバー企業の協力で身に着けた晴れ着姿の写真をプレゼント。



赤見会長

令和5年度賛助会員・行事協力会員

- 株式会社 島田教材社
- 株式会社 高崎松風園
- (株) トミザワ
- 日本火薬(株)
- 荒瀬印刷(株)
- 杉浦紙工(株)
- (株) 小塚製作所
- (株) 高長組
- あずま保育園
- 段平寿司
- 豊田園
- 旬松本孔版社
- 小森谷商店
- クシダ工業(株)
- 糸井商事(株)
- ゆうあい総合法律事務所
- 清水歯科医院
- セブンイレブン高崎上小埜店
- ほりぐち鍼灸整骨院
- 旬曾根組
- 認定こども園エデュカール城之内
- 認定こども園ひよこプリスクール
- 認定こども園高崎科大佐藤幼稚園
- 三山幼稚園
- せんだん保育園
- 高崎ロータリークラブ
- 高崎北ロータリークラブ
- 高崎セントラルロータリークラブ
- 高崎東ロータリークラブ
- 高崎シンフォニーロータリークラブ
- 国際ソロプチミスト高崎
- 高崎ライオンズクラブ
- 高崎三山ライオンズクラブ
- 高崎東ライオンズクラブ
- 高崎和田ライオンズクラブ
- 高崎中央ライオンズクラブ
- 高崎城ライオンズクラブ

※敬称は略させていただきます。



「世界寺子屋 運動」

ご協力へのお礼

世界寺子屋運動推進委員長 中島 千恵美

書きそんじハガキ・キャンペーン2023にたくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。世界の学びたい人々の学びを止めないよう、市広報紙や学校・園へのお願いをし、活動を継続して参りました。令和6年2月28日集計作業を行いました。小・中学校の他、こども園や幼稚園、市民の皆様からのご支援いただいたハガキと切手は三十万三千九百九十二円でした。

祝 松本千恵子 理事

高崎市社会教育功労者表彰

令和5年12月2日(土) 高崎市市民活動センター(ソシアス)にて松本千恵子氏が「高崎市社会教育功労賞」を受賞されました。10有余年にわたる計画的で創造性あふれた精緻な日頃の活動が認知された証と考えます。とりわけ、高友協創立50周年記念式典オープニングスライドショーCD作品の制作・発表は、参列者に感動を与えたと受け止めています。現在は、県ユ連事務局長を経て高友協理事(広報部長・事務局次長)はもとより、日本ユネスコ国内委員として活躍されています。

これからも「タンス遺産3兄弟」書きそんじロー、貼りそんじロー、使いそんじローを合言葉に、皆様からの温かいご支援に感謝し、世界中で教育を受ける機会がない子ども2億4千万人、読み書きの出来ない15歳以上の大人7億6千万人が学びの機会を得られるよう、キャンペーンを盛り上げていきます。今後ご支援をよろしくお願いいたします。



あとがき

やっとできた野外体験活動の子ども達の楽しそうな声！これこそ活動の原点。みんな元気をもらいました。(松本)

